

ミステリ読書案内

2024. 7. 21 発行元

第591号 伊藤 剛

<https://mystery-dokuan.com>

1988年のミステリ

新しい企画として1988年をスタートに、それぞれの年のミステリを振り返ってみることにした。元になるのは宝島社の『このミステリーがすごい!』の年間ランキング・ベスト20。さて、どんな年だったかな？

昭和「最後の年・新時代へ

1988年、昭和63年。「昭和」の最後の年と言ってもよい。当時、私は三十歳代半ばで仕事に振り回されており、本は一年に百冊も読んでいなかったと思う。

右に『このミステリーがすごい!』年間ランキングの20位までを並べてみたが、当時、発刊されてすぐ読んだのは『そして夜は甦る』『黄昏のベルリン』『異邦の騎士』『切り裂きジャック百年の孤独』『奇跡の男』ぐらいだったような気がする。他の作品は十年以上過ぎてから読んだ。

ベスト20の作品題名を見て思うこと。「名作、傑作がずらりと並んでいるなあ」ということ。特に印象深いのは原奈のデビュー作『そして夜は甦る』と、島田荘司のベスト作品『異邦の騎士』の二作。

島田荘司が引っ張り、綾辻行人が具体的な実践例を示して「新本格」の時代が順調に推移し、新人作家を含めて盛り上がりの多かった年だったと思う。連城三紀彦や泡坂妻夫、栗本薫の「幻影城」メンバーも活躍を続けている時期だった。

この年の江戸川乱歩賞は坂本光一『白色の残像』、横溝賞該当なし、サントリーミステリー大賞は笹倉

1988年「このミス」ベスト20

- | | |
|-------------------|-------|
| 1. 伝説なき地 | 船戸与一 |
| 2. そして夜は甦る | 原 奈 |
| 3. 黄昏のベルリン | 連城三紀彦 |
| 4. ベルリン飛行指令 | 佐々木譲 |
| 5. 異邦の騎士 | 島田荘司 |
| 6. そして扉が閉ざされた | 岡嶋二人 |
| 7. 迷路館の殺人 | 綾辻行人 |
| 8. 密閉教室 | 法月綸太郎 |
| 9. さまよえる脳髓 | 逢坂 剛 |
| 10. ダブル・スチール | 藤田宜永 |
| 11. 奇跡の男 | 泡坂妻夫 |
| 12. 倒錯の死角 | 折原 一 |
| 13. 遙かなる虎跡 | 景山民夫 |
| 14. こっちは渤海 | 志水辰夫 |
| 15. 切り裂きジャック百年の孤独 | 島田荘司 |
| 15. 女王陛下のアルバイト探偵 | 大沢在昌 |
| 17. ぼくと、ぼくらの夏 | 樋口有介 |
| 18. 魔球 | 東野圭吾 |
| 18. 鬼女の鱗 | 泡坂妻夫 |
| 18. 明治十手架 | 山田風太郎 |

明『漂流裁判』、サスペンス大賞優秀賞は乃南アサ『幸福な朝食』。

法月綸太郎「密閉教室」

1988年ベスト8作品。講談社ノベルスから出た本。法月綸太郎のデビュー作になる。江戸川乱歩賞候補になった作品が元になっているらしい。島田荘司、綾辻行人、歌野晶午、有栖川有栖などと並ぶ「新本格」の書き手の誕生。他の法月作品の名探偵は作者の名前と同じ法月綸太郎だが、本書は高校生が探偵役を務めている。学園もの。青春ミステリのひとつ。150近い細かな章立てで組み立てられており、エラーリー・クイーン作品の影響が至るところに感じられる。

冒頭のプレリュード。朝、湖山北高校の7R教室に一番乗りした梶川笙子は教室のドアが開かないことに気付く。誰かのいたずらかと思ってドアを叩くのだが…。そこへ担任の大神龍彦＝ネロ(ネロ・ウルフのネロ)がやってくる。脚で蹴ったりして無理やり開けると、目張りした教室の中には中町圭介という生徒が血まみれになって倒れていた。そして、教室にあったはずの48脚の机と椅子がすべて消えてなくなっていた。遺書があり、カッターナイフで首を切って自殺したように見えるのだが…。登校してきた同級生の推理マニア・工藤順也が周りの生徒たちから情報を集め始める。果たして真実にたどり着くことができるのだろうか。

逢坂剛「さまよえる脳髓」

1988年ベスト9作品。新潮ミステリー倶楽部から出た本。この新潮ミステリー倶楽部シリーズでは、佐々木譲の『ベルリン飛行指令』が同年に出ている。逢坂剛と言えば、まず思い浮かぶのが『カディスの赤い星』などのスペインもの、そして『百舌シリーズ』。私の好きな『鳶鷹シリーズ』である。本書『さまよえる脳髓』は逢坂にしては珍しい「医療サスペンス」。

冒頭で都内で発生した不穏な動きの事件が紹介される。そのひとつが東京球場でのもの。完全試合まであと二人までたどり着いた投手・追分知之。三塁後方に上がったポップフライを守備側が落とし、完全試合が途切れた。限界と見た監督がピッチャー交代を告げると、追分がリリースカーを運転してきたマスコットガールに襲いかかり、首を絞める暴挙に走ったのだ。取り押さえられた追分は殺人未遂に問われ、精神分析を受けることになった。ここで登場するのが帝国医科大学付属病院・精神神経科の主任・南川藍子。彼女の診断により、裁判では追分の心神喪失が認められ…。ところが藍子の周りでは恋人になっていた警視庁防犯部警部補の海藤兼作の動きに不審なところが出てきて…。異常行動と心理的な関係は**大脳のはたらきと結び付いて…**。